

シャボン玉石けん視察報告

<日時> 令和 8 年 1 月 19 日 14 時～15 時半

<場所> シャボン玉石けん本社工場

視察先の概要

シャボン玉石けん株式会社は、無添加石けんを主力とする石けん・洗剤メーカーです。同社は 1910 年(明治 43 年) 2 月に「森田範次郎商店」として創業し、1949 年(昭和 24 年)5 月に法人化されました。代表取締役社長は森田隼人氏で、事業内容は、香料・着色料・酸化防止剤・合成界面活性剤などの添加物を一切使用しない「無添加」に徹底的にこだわった石けん・化粧品・洗剤の製造・販売です。主力商品には浴用せっけん、洗濯用石けん「スノール」、ハミガキ、ベビーシリーズ、素肌化粧水などがあり、伝統的な釜炊き製法(ケン化法)で 1 週間以上かけて丁寧に作られています。

企業の理念は「健康な体ときれいな水を守る。」で、「人にやさしいものは、自然にもやさしい」というスローガンのもと、1974 年に合成洗剤の販売を全面停止し、無添加石けん一本に転換したことで知られています。この決断により一時は売上が激減し、従業員も 100 名から 5 名へ大幅に減少し、苦難を経験しましたが、1991 年の書籍出版(自然流『せっけん』読本)などをきっかけに認知が広がり、復活を遂げました。現在は石けんリサーチセンターを設置し、研究開発や海外展開も推進しています。環境保全活動にも積極的で、北九州市の環境モデル都市としての取り組みに貢献しています。

工場見学は完全予約制で人気を集めており、無添加石けんの製造工程や合成洗剤との違いを実際に体感できます。創業から 115 年を超え、無添加への情熱を貫きながら、世界一の石けんメーカーを目指して挑戦を続けている企業です。

調査事項の概要

1. シャボン玉石けんが関わった「地島での実証実験」、正式名称「未来の海を守る 島まるごと無添加石けん生活～生活排水の環境及び生物に対する影響に関する実証実験プロジェクト～」についての事例。

2. 石けんと合成洗剤の違いについてと石けんの製造工程見学

1. 未来の海を守る 島まるごと無添加石けん生活～生活排水の環境及び生物に対する影響に関する実証実験プロジェクト～」

2021 年 9 月から 11 月までの 3 カ月間、福岡県宗像市沖の離島・地島(じのしま)で実施された産学官民連携の取り組み。参加主体は、シャボン玉石けん株式会社、山口大学大学院創成科学研究科、一般財団法人九州環境管理協会、宗像市の 4 者連携。地島の島民全員に協力してもらい、洗濯・食器洗い・入浴・手洗い・シャンプーなど日常生活で使う洗浄剤を、合成洗剤からシャボン玉石けんの無添加石けん製品(スノール、台所用せっけん、ボディソープ、フェイシャルソープなど)に切り替えて生活した。生活排水が海や環境・生物に与える影響を実生活レベルで検証する国内初・世界でも珍しい実証実験。



目的は、無添加石けんが本当に「環境にやさしい」ことを科学的に証明し、生活排水による海洋汚染の軽減可能性を示すこと。特に、合成界面活性剤などの化学物質が海の生態系に与える負荷を減らせるかを調べること。

結果

- 下水処理場の曝気槽(浄化施設)で、汚れを分解する微生物の種類と量が大幅に増加。
- 海に放流される処理水の化学物質(汚れ成分)の量が半分以下に減少。
- 水質が劇的に改善し、処理効率が向上

以上の結果により、「石けんが環境にやさしい証明」として国内外に発信している。

この実験以降も、一部の島民が無添加石けんを使い続けたり、環境学習が継続されたりするなど、長期的な影響が見られる。そして実証実験は、シャボン玉石けんの環境保全活動の象徴的なプロジェクトとして語られている。

2. 合成洗剤と石けん(特に無添加石けん)の主な違い

石けんは、天然油脂(牛脂・パーム油など)とアルカリを反応させる「けん化法」で作られ、主成分は脂肪酸ナトリウムや脂肪酸カリウム(石けん素地)のみです。シンプルで、弱アルカリ性。肌への刺激が少なく、生分解性が非常に高く、数日で90%分解されます。石けんカスも魚のエサや無害に変わる。シャボン玉石けんのようは無添加なら、添加物を一切使わず環境負荷が低い。

一方、合成洗剤は主に石油由来の原料を化学合成し、合成界面活性剤(LAS など)を主成分に、酵素・香料・着色料などの添加物を多数加える。洗浄力が強く、硬水や低温でも効果的で使いやすいが、手荒れの原因になる場合がある。また、過去に公害を引き起こした歴史がある。最近では化学物質に過敏に反応してアレルギー症状を発症する場合もあり、特に香害と呼ばれる香り成分などを閉じ込める技術、マイクロカプセルは近年問題になってきている。

見分け方は、パッケージの「品名」で「石けん」とあれば石けん、「合成洗剤」なら合成洗剤。

また、シャボン玉石けんの無添加石けんは、釜焚き職人が高温の石けん素地を舌で確かめ、滑らかさなどを確認している。

質問事項

「生活排水の環境及び生物に対する影響に関する実証実験プロジェクト」について

Q. 他市からも同様の取組の打診はありましたか。あればその状況など教えてください。

A. いくつかの自治体よりお声かけがございました。現地調査を行い、規模感や新規性を考慮し、実験案を協議いたしました。荷物(弊社商品)の輸送に関する点や、分析に協力いただける機関、協力体制の確立などに課題が生じ実施には至っておりません。

Q. 業務提携などの市町村との連携だけでなく、NPO 法人など民間団体との関わりはありますか。

A. あります。詳しくは弊社コーポレートサイト「サステナビリティ」のページをご覧ください。

<https://www.shabon.com/approach/nature.html> 特に「1% For Nature プロジェクト」という取り組みにおいては、様々なNPO 法人と関わりががございます。



Q.地島での住民説明会で苦労した点は何ですか。

A.住民説明会での苦労は特にございませんでした。宗像市が事前に住民の方へ周知して下さったおかげで、ある程度の理解・協力を得たうえで住民説明会を実施することができました。地島の住民に限らず、初めて石けんをお使いになる方には、その特徴や使い方のコツなどを説明しております。地島住民も約9割が初めての使用でしたので、その特徴やコツなどは丁寧に説明をさせていただきました。住民の方に石けんを正しく理解し、使い続けていただけることこそが実証実験の鍵となりますので、ここは最も注力した点です。使い方のコツをまとめた資料の配布や定期的な意見交換を通じ、住民の方とのコミュニケーションを大切に取り組みで参りました。

Q.商品としてはどのくらいの予算を必要としましたか。(一軒あたりの3ヶ月間使用量が分かれば教えてください。)

A.約30製品を提供させていただきましたが、3か月間でいうと約200万(税抜)単純計算で一世帯当たり約3万円程度です。ただし、各家庭が使用する種類や頻度によって異なります。(3か月間の使用量は1tです。単純計算で1軒あたり16kg程度です。)

Q.水質の結果はどのように変化し、満足な結果は得られましたか。

A.3ヵ月という短い期間で、結果が出ないのではないかと不安もありましたが、想定以上の結果となりました。水質評価について、開始1ヵ月ほどで合成界面活性剤濃度、BODともに減少しました。実験終了後(石けん生活終了後)は、島民がもともと使用していた合成洗剤の使用に戻ったため、実験前と比べ同等以上にBODが増加しました。この結果から、石けんを使用したことによる水質改善が明らかになりました。

*BOD:生物化学的酸素要求量。BOD(有機物が分解される時に消費される酸素量)が高いと水中の酸素が欠乏し、魚類の酸素が不足する。

Q.実証実験以後の商品開発に何らかの影響がありましたか。

A.住民の方とコミュニケーションをとる中で、様々な改善案や使い方の工夫等のアイデアをいただきました。そのような生の声は会社に共有し、様々なお声を解決できるような商品の開発に努めております。

Q.結果報告後、住民の商品利用割合はどのくらいでしょうか。(わかる範囲内で教えてください。)

A.実験終了後のアンケートでは約8割の方が使い続けて下さっているという結果でした。もともと地島にはスーパーなどがなく、わずかな雑貨品・食品(アイスや飲み物など)が売っている程度の小さな売店しかございません。住民の多くは、船で本土に渡り、近隣の小売店で買い物をしているようでした。弊社商品について、島内の売店では取り扱いがなく、島外の近隣の小売店でも一部置いている程度でラインアップが少なく、住民にとっては手に取りにくい状況でした。

そのため、島内の小さな売店に石けんを置いてもらうように漁業組合に相談し取り扱っていただき、また本土側でも取り扱いの多い店舗を紹介いたしました。

Q.西尾市にも人口約170人の島があります。ここで同様の実証実験をするとしたら、どんな事が課題となりそうですか。

A.西尾市の島の状況を十分に把握できていないため、正確な回答はできかねます。そのため地島で実施する際に課題となった点として記載いたします。



- ・実験の新規性や社会的意義
- ・下水処理設備の状況
- ・サンプリングや分析機関
- ・石けん提供方法、費用など人口が増えるほど、実験のコントロールが難しくなるため、実験内容・期間などは念入りに協議をして実施することになるかと思えます。

Q. バイオリストア(BIORESTORE)という使い古された衣類を復活させる洗剤のようなパウダーがスウェーデンで開発されていますが、貴社もそのような新しい商品開発はされていますか。

A. 弊社は石けんを中核とした商品開発を行っておりますので、上記のような類の商品は検討しておりません。石けんは生地を傷めにくく、ふんわりとした洗いあがりになるため、生地本来の着心地の良さや肌触り、色合いを損ねません。また、弊社の洗濯石けんは、香料・着色料・酸化防止剤・合成界面活性剤を使用しておりません。敏感肌の方や赤ちゃんの衣類洗いにもお使いいただけます。洗濯後、衣類に石鹸カスが付着することがございますが、我々は日々研究を行い、より使いやすい商品をお届けすべく改良を続けて参ります。

Q. 初心者でも使用しやすい貴社の商品は何ですか。また、今後の貴社の目標など教えてください。

A. 使用しやすいのは「シャボン玉浴用 100g」です。初心者であれば、身体洗い・洗顔・手洗いで石けんを使いやすいと思います。この商品は、これ1つでこれらの用途に使っていただけますし、慣れたらシャンプーもできます。これ1つあれば全身洗える、おススメの商品です。今後の弊社の目標は、「健康な体ときれいな水を守る。」という企業理念のもと、生命あるものすべてが安心・安全に過ごせる社会の実現に向け、製品づくりを通して貢献していくことです。その実現に向けて、工場のスマートファクトリー化や研究開発への注力、広告・広報活動を通じた無添加石けんの啓発などに取り組み、世界一の石けんメーカーを目指してまいります。

所見

今回の視察に行った経緯は、香害に悩む市民の方からの情報提供で島民 170 人の島で合成洗剤から無添加せっけんに切り替えて生活をしてみよう実験をしたとの記事を送付いただいたことがきっかけです。本市には人口 140 人程の佐久島があり、同様の実証実験が可能ではないかとの期待を込めて伺った。石けんカスが微生物の餌になり、川に流しても問題ない無添加石けんとは違い、合成洗剤は石油由来であり、どうしても魚介類への影響があることを考えると洗浄力が高く安価だが肌や環境への負荷が大きい。利便性だけにとらわれず、アサリやノリ、ワカメまたシャコやエビなど三河湾を代表する海産物の漁額高アップのためにも是非本市において実証実験をしてみたいところである。

たった3ヶ月の期間で下水処理場の水質調査では放出される汚れが減っており、微生物の量や種類も増えていることから、ただ綺麗な海になるのではなく、豊かな海を取り戻すことに期待できる取り組みであると考えます。

予算においては200万円以下で可能であろうこと、補助金の助成を受けられる可能性があることから、住民の理解を得て進められれば大変唯意義な実験になると思われる。

山口市視察報告

<日時>令和8年1月20日 10時～11時半

<場所>山口市役所

視察先の概要

山口市は、山口県の県庁所在地で、県のほぼ中央部に位置する都市です。人口は、令和8年(2026年)2月1日現在の推計で187,408人(男:89,559人、女:97,849人、世帯数:88,943世帯)となっています。面積は約1,023㎢と県内最大級で、中国山地の山並みから瀬戸内海の海岸線まで、多様な自然に恵まれています。観光資源として、山陽随一の湯量を誇る湯田温泉や、歴史ロマンを感じる「SLやまぐち号」が代表的です

歴史的には「歴史が息づく文化の薫る街」と呼ばれ、室町時代に大内氏の本拠として発展し、「西の京」と称されるほどの繁栄を極めました。明治維新の策源地としても知られ、高杉晋作、伊藤博文、木戸孝允ら多くの志士が集った地です。近年は少子高齢化・人口減少傾向が続いていますが、豊かな自然・歴史・文化を活かしたまちづくりが進められています。



調査事項の概要と質問事項

地域新電力会社設立について

令和6年(2024)年4月、山口市は地域新電力会社「山口グリーンエネルギー株式会社」を設立。廃棄物発電や太陽光発電等により電力を調達し、市公共施設や中心市街地エリアに供給。

脱炭素先行地域の取組により、中心市街地における地域経済の活性化やまちなか居住の促進、災害に強いまちづくりなど、本市の地域課題の解決や地域活性化につなげる。

「デコ活」(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動)の取組 について

Q. 「デコ活宣言」のきっかけについて

令和3年12月の「山口市ゼロカーボンシティ宣言」を契機に、地球温暖化対策・地域脱炭素を進める決意を表明。デコ活宣言の背景・きっかけは何か?

A. 山口市 COOL CHOICE 宣言(平成30年3月)

山口市ゼロカーボンシティ宣言(令和3年12月)・山口市地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)

国のデコ活移行の動きに呼応し、2050年ゼロカーボンシティの実現や、環境目標の一つである「地域脱炭素をけん引し未来の子ども達が安心して暮らせるまち」の実現に向けて、「デコ活」を推進。



Q. デコ活宣言内容について

脱炭素につながる製品・サービス・取組、また市として日々の生活・仕事で実践している具体的なデコ活は何か?

A. 脱炭素製品、サービス、取組展開の内容について市民や事業者のデコ活の実践促進につなげるため、まずはデコ活の認知度向上に向けた取組を展開。デコ活の認知度を「選ぶー」などのキャラクターを活用してまず高め、市民や事業者にエコな選択を実践してもらう取組を進めています。

市職員が率先して省エネ・デジタル化・EV 公用車導入・ノーマイカーデーなどに取り組み、公共施設の省エネ設備導入や成果を積極的にPR することで、みんなが楽しく脱炭素に取り組む機運を高めています。

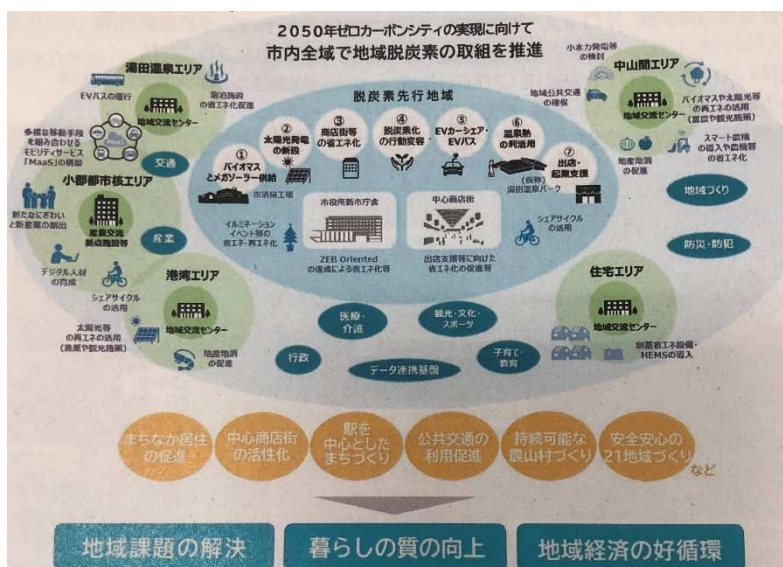
Q. デコ活周知啓発事業（公募型プロポーザルによる民間事業者との連携）はどのようなか。

A. ぬりえコンテストを幼稚園・保育園などに園児やその保護者を対象に実施。川柳コンテストは全世代の市民を対象に、デコ活をテーマに実施し、審査での参画も可能で令和6年度は700名以上が参加。また、デコ活広場として、クイズラリーやエコバッグなどのワークショップを様々なイベントで出店し周知啓発を行った。

Q. 市内全域でのデコ活の取組についてはどのようなか。

A. エリアごとにそれぞれできることを明確に定め、地域脱炭素を通じた便利で安心安全な活力ある地域社会を形成するよう取り組みを推進。

具体的には、バイオマスとメガソーラー供給、太陽光発電の新設、商店街等の省エネ化、EVカーシェア・EVバスの走行、温泉熱の利用、出店や起業支援など。特に、地域新電力会社「山口グリーンエネルギー（株）」の設立は、今後一般家庭や事業者にも供給を予定しており、中心商店街で使用できるエコポイント制度等の導入も検討されている。また、公用車であるEV車を休日に市民に開放し、カーシェアリングを始めている。



Q. 市民、事業者、民間団体との連携、協力についてはどのようなか。

A. 山口市地球温暖化対策地域協議会（温暖化とめるっちゃんネットワークやまぐち）を設立。

市が地球温暖化対策に関する普及啓発活動を委託し、市域の温室効果ガス排出量削減のために、市民・事業者・民間団体・行政などのあらゆる主体が連携して、様々な取組を実施。

【会員構成】 企業や大学などの会員:30 団体、個人会員:81 名

【主な活動】・各種イベントへの出展を通じた普及啓発

- ・環境学習講座の実施 ・夏休みエコチェックシートの実施
- ・エンカル消費の啓発など

毎月の月例会で会員と意見交換を行い、連携を図りながら、事業を企画・運営し市民が楽しみながら学び、体験できる事業を展開。

具体的には、エアロバイク発電体験、My デコ活宣言、(令和6年度参加者1740名)、環境学習講座としてミニソーラーカー工作教室を開催(令和6年度受講実績524名)。夏休みエコチェックシートの実施(令和6年度参加者1203名)。サステナブルラベルを集めてプレゼントがもらえるエンカル消費の啓発、日産自動車(株)と連携しEVモデル化一実験や試乗・見学などを実施。

	2013 (平成25) 年度	2019 (令和元) 年度	2020 (令和2) 年度	2021 (令和3) 年度	2022 (令和4) 年度	2013 (平成25) 年度比 (%)
二酸化炭素排出量	1,950.2	1,643.6	1,704.8	1,821.8	1,953.0	0.1
エネルギー起源CO ₂	1,916.2	1,616.9	1,675.6	1,789.1	1,928.3	0.6
産業部門	651.7	613.7	743.3	826.1	976.7	49.9
業務その他部門	445.2	302.9	275.4	294.7	296.9	▲ 33.3
家庭部門	425.8	336.9	334.0	341.4	325.6	▲ 23.5
運輸部門	393.5	363.4	322.9	324.9	329.0	▲ 16.4
非エネルギー起源CO ₂	34.1	26.7	29.2	32.7	24.7	▲ 27.4
廃棄物部門	34.1	26.7	29.2	32.7	24.7	▲ 27.4
メタン排出量	37.6	33.9	32.3	31.9	32.2	▲ 14.3
一酸化二窒素	26.0	23.9	24.6	22.0	22.5	▲ 13.6
代替フロン等3ガス排出量	4.1	3.3	3.4	3.1	3.0	▲ 26.4
温室効果ガス排出量 計	2,017.8	1,704.7	1,765.1	1,878.9	2,010.6	▲ 0.4
吸収源対策	-	-	-	247.8	247.8	-
温室効果ガス排出量 合計	2,017.8	1,704.7	1,765.1	1,631.1	1,762.8	▲ 12.6

Q. デコ活宣言後からの進捗・成果の状況は？

A. 暮らしの分野（家庭・運輸・非エネ・業務その他部門）における温室効果ガス排出量の数値について、山口市地球温暖化対策実行計画において数値を把握しており、2013年と比較すると削減されてきている。（左表のとおり）

Q. デコ活の方針の市民浸透度について

環境にやさしい商品・サービスを取り入れることで「脱炭素なのに快適で健康な生活」を実現するという方針は、市民にどの程度浸透していると感じるか？

A. デコ活の認知度はまだ低い状況であり、浸透していると

は言い難く、更なる認知度向上や実践促進は課題。

Q. 国のデコ活の展開についてはどのようなか。

A. ＊脱炭素の認知度（若年層）、実践している人の割合の把握について毎年、環境に関する市民アンケートを実施（18歳以上2,000人を対象（無作為抽出））

- ・山口市ゼロカーボンシティ宣言認知度 R5 17.0%(12.0%) R6 16.5% (9.3%)
- ・デコ活の認知度（R5はCOOL CHOICE）R5 32.6% (26.3%) R6 22.2%(6.2%)
- ・地球温暖化対策を意識して生活している市民の割合 R5 72.3% R6 72.2%

＊国の令和6年度補正予算及び令和7年度予算における山口市の補助金交付額、過去の補助総額について ・デコ活推進事業、商用車の電動化促進事業→交付を受けていない（デコ活移行後2年間）

＊住宅のZEH・省CO₂化促進事業、断熱窓への改修促進等による住宅の省エネ・省CO₂加速化支援 →市民や民間事業者への補助金交付額は把握していない（自治体は補助対象外）

＊国の事業費補助金等は十分かどうか → 判断できない。

＊デコ活応援団の登録数→登録数 1 団体（国のウェブサイト上にて検索）

所見

自治体が民間と積極的に連携し、共同で会社を設立した上で、副市長がその会社の社長を兼務しているという取り組みは、極めて先進的かつ前例の少ない挑戦であると言えます。特に、官民連携をここまで本格的に進め、「稼ぐ自治体」としての強い意識を持って事業を推進している点は、本当に素晴らしいと感じます。今後の動向が非常に注目される所です。また、様々な意識付けのイベントを継続的に開催しており、特に幼少期からのデコ活は、未来を担う子どもたちにとって非常に大切な取り組みであると改めて実感しました。

さらに、補助金をうまく活用することで財源負担を極力抑えつつ、地球に優しい「デコ活」を推進している点も優れています。ごみ減量化の観点から見ても、今後、本市としてさらに積極的に推進していくべき重要な事業であると考えます。コストの低い事業については本市でも導入できるものがあるかもしれません。執行部と打ち合わせを重ね、「稼ぐ自治体」になるべく提案し続けていく所存です。